

長男の大貫一行さん（64歳）にもお話を聞きました。

——清和園に入所となった経過を教えてください。

「母は、昨年11月に脳梗塞で孝仁会記念病院へ救急搬送されました。すぐに手術をして、そのまま2カ月くらい入院。その後、リハビリのために星が浦病院へ転院しました。そこで、今後のことについて、病院の相談員さんや担当のケアマネジャーさんなどと、いろいろな話をしました。今までは父と2人で何とか生活していましたが、後遺症が残って右半身がマヒし、歩くことが難しくなったことから、父との2人暮らしは難しいだろうという判断をしました。それで特養に申し込みをしました」

——清和園に入れたのはタイミングが良かったのでしょうか。

「特養の申し込みは、清和園を含めて3カ所に出していました。最初は音別町にある特養で話を進めていたのですが、たまたまタイミング良く清和園に入ることができました。もし入れなければ、町外の特養に入っていたと思います」



おおぬき しちろう  
大貫 七郎さん（91歳）

昭和3年11月28日栃木県生まれ。22歳のときに北海道へ移住。現在のサッポロドラッグストアの駐車場がある場所で、大貫ストアを経営。70歳を過ぎてからは、妻がやっていた花屋（寿園）を一緒に行く。趣味は詩や短歌を作ること。

大貫七郎さん(左)とトシ子さん(右)の面会の様子です。取材時は一定制限のもとで面会ができていましたが、現在はWEB面会（テレビ電話）での面会のみで、直接会っての面会はできません。左下の写真はトシ子さんがWEB面会をしている様子です。



——町外の特養となると、面会に行くことが難しくなりますね。

「そうですね。父も毎週顔を見ることができているすし、私も出稼ぎをしております、時間的な余裕がないので、私たちが希望している特養に入れたのは、本当に良かったです。病院の相談員さんや担当のケアマネジャーさん、特養の相談員さんなど、いろいろな方に相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けてここまでやってこられたので、本当にありがたいと感謝しています」